

「東京でISSを観察する(1)」

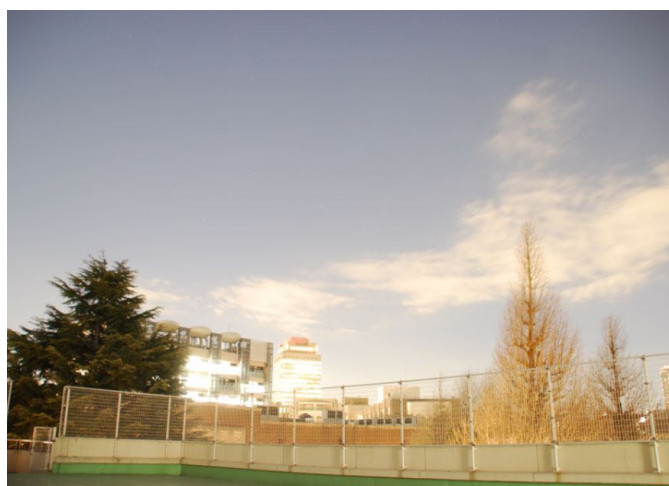
お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

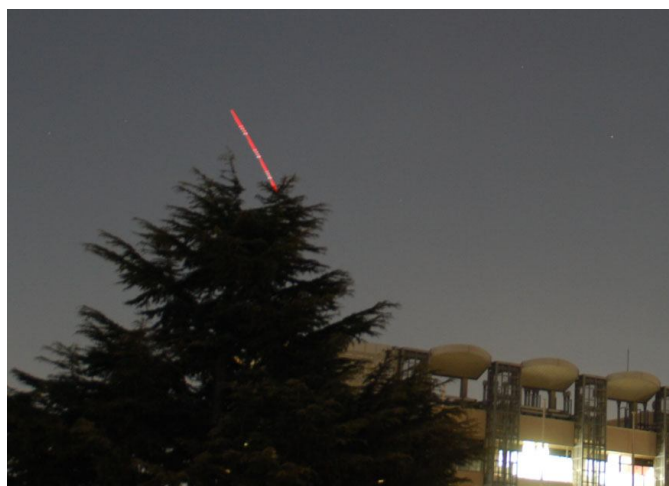
田中 千尋 Chihiro Tanaka



東京都内のように「光害」が激しい場所で、同じ条件で長時間露光撮影をすると、このように画面全体が真っ白になってしまう。完全に露出オーバーである。



ISO (感度) を落とし、更にシャッタースピードも短くしてみたが、このように、まるで昼間のような景色になってしまった。



そこで、レンズを望遠に変え、更にシャッタースピードを早めて、10秒としてみた。ISSの飛翔体が飛来する前に、ちょうど同じような径路で飛行機が見えたので、それを試験撮影してみた。ISSとちがって、飛行機は航行灯を明滅させて飛ぶので、このように写る。空の暗さも見た目に近い。この方法が良いようだ。



1月22日の夕刻(夜の始め)に、本州の南岸を、国際宇宙ステーション(ISS)が飛行した。九州から北海道まで、列島の広い範囲で見られたが、ISSの飛行経路(の真下)に近く、天気も安定している関東南部が、一番観望条件がよかった。「平成」の間にISSが見られるのもあとわずかなんおで、私は職場の屋上で、ISSを撮影しておこうと思った。



写真は、以前北軽井沢で撮影したISSの光軌である。ISSの写真は、このように長時間露光で撮影し、その間に動いた軌跡が線になって写る。北軽井沢では、もともと空が暗いので、撮影は容易である。